

ナルシスティックリアクタンス理論の検討

山香玲子・深田博己

An examination of the narcissistic reactance model of sexual coercion

Reiko Yamaka and Hiromi Fukada

ナルシスティックリアクタンス理論とは、性的強要場面における男性の特徴を心理的リアクタンス理論とナルシズムで説明する理論である。本研究では、この理論の有効性を検討することを目的とした。実験計画はナルシズム状況（ナルシスティック状況条件・通常状況条件）×ナルシズム特性（高群・中群・低群）×リアクタンス特性（高群・中群・低群）の3要因実験参加者間計画を採用した。シナリオを用いて質問紙実験を行い、シナリオに登場する男性に対する印象と女性に対する印象を従属変数とした。その結果、性的強要を示す男性は、ナルシスティック状況条件の方が通常状況条件よりも、肯定的な印象を実験参加者に与えることが解明され、理論からの予測が支持された。しかし、理論からの予測に反して、性的強要を受ける女性も、ナルシスティック状況条件の方が通常状況条件よりも、肯定的印象を実験参加者に与えていた。

キーワード：ナルシスティックリアクタンス理論，ナルシズム状況，ナルシズム特性，リアクタンス特性，性的強要

問 題

1. 研究の背景と必要性

レイプや性的強要行為は、多くの被害者にとってトラウマとなる深刻な社会問題である。しかし、こういった行動の原因についての理解は不十分であり、また原因追求のため模擬実験を行い、データを集めることは道徳的にも実際的にも問題がある。

そこで、これまでのレイプの事例を検討した結果、こういった行動を起こしやすい男性の特徴や状況を説明するナルシスティックリアクタンス理論 (narcissistic reactance theory) が Baumeister, Catanese, & Wallace (2002) によって提案された。ナルシスティックリアクタンス理論とは、性的強要はナルシズム (narcissism) とリアクタンス理論 (reactance theory) の組み合わせによって説明できるという理論である。しかし先行研究は海外での1例しか存在せず、日本での研究は皆無である。そこでこのナルシスティックリアクタンス理論が有効であるのかを検

討する必要がある。この理論が有効であれば、レイプや性的強要の原因を理論的に説明することが可能になるであろう。よって本研究では、場面想定法を用いた質問紙によって、ナルシスティックリアクタンス理論を検討することを目的とする。

2. ナルシスティックリアクタンス理論

ナルシスティックリアクタンス理論に関する以下の記述は、Baumeister et al. (2002) に基づく。

2-1.ナルシスティックリアクタンス理論の概要

ナルシスティックリアクタンス理論とは、性的強要場面における男性の特徴を心理的リアクタンス理論とナルシズムを組み合わせることで説明したものである。男性が女性とセックスをしたいと望み、女性がそれを拒んだ時、男性は女性の意思にかかわらず、そのままセックスへと押し進めるか、もしくは彼女の拒否を受け入れてやめるかといった選択を迫られる。心理的リアクタンスはセックスを押し進める衝動を引き起こし、そして、ナルシズムは女性が拒否した時点でのリアクタンスの感じやすさを増加させ、また拒否を受容する代わりに強制的な暴力を振るう傾向を増加させる。

2-2.心理的リアクタンス理論

心理的リアクタンス理論はBrehm(1966)によって提唱された。人は行動の自由が外部から侵害された場合に、行動の自由を求め、侵害された行動をとるという反応を示す。リアクタンスの引き起こす3つの結果としては、①行動の自由を侵害された直後、その行動を以前よりもますます魅力的に感じる、②禁止された行動をとることによって、自由を取り戻そうとする、③自由を侵害した他者に対して、攻撃を行うもしくは攻撃的に振舞う、ということが挙げられる。このリアクタンス理論を性的強要場面へと応用すると、リアクタンスが引き起こす3つの結果として、①男性にとってその女性とのセックスがますます魅力的になる、②セックスするという失われた行動の自由を取り戻そうとより必死になる、③その女性が自由を侵害するため、攻撃行動をとる、ことが挙げられ、その結果、女性とセックスしたいという強い衝動が作られ、目的を果たすために攻撃的な暴力を用いるということが考えられる。

しかし、単純に心理的リアクタンス理論を性的強要場面に応用することには問題がある。まず、女性のセックスの拒否は日常的にあることだが、セックスの拒否に対する反応として強要行為を行う男性は稀である。また、本当に男性が女性のセックスの拒否を自由の喪失と感じているか、セックスを行う選択権の自由が自分にあると考えているか、ということである。このように、全ての男性が女性のセックスの拒否に対して性的強要行為を行うとは考えにくく、性的強要行為を行う男性の特徴を考える必要がある。

2-3. ナルシズム特性

そこで、性的強要行為を行う男性の特徴として取り入れられたのがナルシズムである。ナルシズムは、自己の重要性に関する誇大な感覚、限りない成功・権力などの空想、自分は特別で独特な存在であるとの信念、特権意識、共感の欠如、尊大で傲慢な行動などによって定義される (American Psychiatric Association, 1994: 高橋・大野・染矢(訳) 1995, Pp.230-231.)。このように、

ナルシシトの男性は自分を特別で優れていると考えており、また他人よりも良い扱いを受けるべきであると考えている。そしてそれは性的な領域にも当てはまるため、特権意識によって女性から性的な優遇を期待する度合いが高く、セックスの権利を強く感じているため、女性のセックスの拒否に落胆し、それを侮辱と捉えやすい。このようなことからナルシシトの男性は女性のセックスの拒否に対してリアクタンスを感じやすいと考えられる。

2-4. ナルシシズム状況

ここでは、ナルシシズムを生まれつきや変わらない性格だけではなく、ある特定の状況によって引き起こされる反応形態としても扱う。ナルシシズム状況を引き起こす要因としては、職業的成功、恋愛におけるのぼせ上がり (romantic infatuation)、アルコール、の3つが挙げられる。職業的成功とは、職業面において大きく成功をすることで、こうした男性はナルシシスティックな態度をとることがある。名声を得るなどの特に優れた成功は、自分は特別であり、他人にはない特権を与えられた人間であると感じさせる。次に、恋愛におけるのぼせ上がりとは、恋愛の中で理想化した他者から愛され、特別な人として扱われることで、自分に対する考えを高め、ナルシシスティックで誇大した自己のイメージを抱くようになることである。特に恋愛関係の初期においては、自分自身の感情や要求に夢中になり、相手に対する誤解や無視が生じやすく、ナルシシスティックな共感の欠如や相手を利用するような態度をとることがある。最後に、アルコールによる酔いは、ナルシシズムの特徴である自己の誇大感と似た誇大感を抱かせる。また、酔うと他者に対して鈍感になり、共感性が低くなり、権利が誇大したように感じるようになる。

2-5. 理論のまとめ

ある男性がある女性とセックスとしたいと望み、それが拒否されたとき、男性は女性の拒否に関わらずセックスへと推し進めるか、拒否を受け入れてやめるかといった選択を迫られる。リアクタンスはセックスへと推し進める衝動を引き起こし、ナルシシスティックな傾向は、男性がリアクタンスを感じる可能性を増加させ、強制的な暴力を用いる傾向を増加させる。

3. ナルシシスティックリアクタンス理論を検討した先行研究

Bushman, Bonacci, van Dijk, & Baumeister (2003) は、実験参加者にレイプのフィルム (レイプシーンのみ、レイプの前にお互いの愛情行動あり、愛情行動のみ、の3種類) を視聴させ、その後、フィルムの楽しさや性的興奮度などを評定させた。その結果、レイプの前にお互いの愛情行動があるフィルムの場合のみ、ナルシシトの男性は非ナルシシトの男性に比べて、フィルムを楽しく、性的に興奮すると評定した。これらのことより、ナルシシトの男性は、愛情行動に応えることで女性が男性の性的欲求を助長しているように感じる場合、男性による性的強要行為を受容しやすく、男性を責める傾向が低いことが示され、ナルシシスティックリアクタンス理論は支持された。

4. 先行研究の問題点と本研究の目的

ナルシシスティックリアクタンス理論では、ナルシシズムを性格などの個人特性を反映した反応

形態としてだけでなく、ある特徴的な状況を反映した反応形態としても扱っている。しかし、先行研究では、特性要因としてのナルシズム特性が性的強要行為に及ぼす影響は検討されているが、状況要因としてのナルシズム状況が性的強要行為に及ぼす影響については検討されていない。また、リアクタンスの喚起しやすさである特性要因としてのリアクタンス特性が性的強要行為に及ぼす影響も検討されていない。

そこで、本研究では、ナルシスティックリアクタンス理論におけるナルシズムの特性要因と状況要因とリアクタンスの特性要因が、性的強要に及ぼす影響を検討し、ナルシスティックリアクタンス理論の有効性を検討する。なお、このナルシスティックリアクタンス理論はリアクタンス状況を前提としているので、本研究ではリアクタンスが起きているか起きていないかといったリアクタンス状況要因は扱わない。

5. ナルシスティックリアクタンス理論の検討方法

ナルシスティックリアクタンス理論を検討するにあたって、実際の場面として性的強要行為を起こすことは、倫理的にも実際的にも不可能である。よってこのような性的強要行為の実験を行うには工夫が必要である。

方法の一つには、性的強要行為の場面を録画し、それらの材料を実験室で実験参加者に見てもらい、評価をするという映像実験法がある。この方法では、現実の場面に近いものが視覚的に示されるため、実験参加者の反応が得られやすいという長所はあるが、材料の刺激が強く、倫理的な問題を抱えており、実行は難しいであろうと考えられる。

そこでもう一つの方法として、性的強要行為の場面設定を質問紙の中で行う質問紙実験法が挙げられる。この方法では、上記の映像実験法と比べて材料としての刺激が和らぎ倫理面での問題が克服できる。ただ、材料の刺激が和らぐために、実験参加者の反応が得られにくいという限界もある。このような限界はあるが、倫理面での実現可能性を考慮して、本研究では、質問紙実験法を採用する。

そしてこの質問紙実験法を行う場合にも、その場面設定の操作で、いくつかの方法が考えられる。まず通常の実験法に近い方法は、初めに実験参加者のナルシズム特性とリアクタンス特性を測定し、そして質問紙の場面設定で、実験参加者自身のナルシズム状況を操作することによって、そうした状況で実験参加者はどのような行動をとるかについて実験参加者自身の予測を測定する方法である（方法Ⅰ）。しかし、この方法では、実験参加者自身の行動として性的強要行為という社会的に望ましくない行為をするかどうかを聞くという倫理的に大きな問題や、状況の操作が実験参加者の現実とかけ離れている場合があり、操作が難しく、実現は困難であると考えられる。

次に、方法Ⅰを一部変えた方法が考えられる。実験参加者自身のナルシズム特性、リアクタンス特性を測定し、質問紙の場面設定では、物語の登場人物のナルシズム状況を操作することによって、そうした状況で登場人物がどのような行動をとるかについて実験参加者の予測を測定する方法である（方法Ⅱ）。この方法では、方法Ⅰでは問題であった倫理面が克服でき、また登場人物のナルシズム状況を操作するため操作は容易になる。ただ短所としては、実験参加者のナルシズム

特性とリアクタンス特性および登場人物のナルシズム状況から登場人物の行動を予測するので、その予測が実験参加者自身の特性をどこまで投影したものであるかには限界がある。このような短所はあるが、操作可能性と倫理面を考慮した結果、本実験では方法Ⅱを用いた質問紙実験法を採用する。

予備実験

1. 目的

本実験では、物語の登場人物のナルシズム状況を操作した印刷シナリオを用いて質問紙実験を行うため、用いるシナリオが重要であると考えられる。そこで、質問紙中のシナリオによって実際に登場人物のナルシズム状況が操作できているかどうかをあらかじめ確認しておく必要がある。よって本実験を行う前に、実験者が作成した2種類のシナリオの条件間にナルシズムの程度の有意な違いがみられるかどうかを検討するために予備実験を行った。

ナルシズム状況の操作は、ナルシシスティックリアクタンス理論でナルシシスティック状況をもたらすとされた、職業的成功、恋愛におけるのぼせ上がり、アルコールによる酔いという情報要素を用いて操作を行った（補助資料 1-1, 1-2 参照）。

2. 方法

2-1. 実験計画

ナルシズム状況要因のみの1要因2水準（ナルシシスティック状況条件と通常状況条件）の実験参加者間計画を採用した。

2-2. 実験参加者

大学生男女 52 名（男性 17 名、女性 35 名）を対象とした。ナルシシスティック状況条件は 26 名（男性 7 名、女性 19 名、平均年齢 22.5 歳、 $SD=2.18$ ）、通常状況条件は 26 名（男性 10 名、女性 16 名、平均年齢 21.3 歳、 $SD=1.84$ ）であった。

2-3. 測定尺度

条件ごとのシナリオについて、文中に登場する男性の職業的成功（学業面での成功、スポーツ面での成功）、恋愛におけるのぼせ上がり、アルコールによる酔いと、また男性がどの程度セックスを強要したか、男性の恋人がどの程度セックスを拒否したかについてについて5段階評定させた（「1. 非常に成功している」～「5. 全く成功していない」、「1. 非常のぼせている」～「5. 全くのぼせていない」、「1. 非常に酔っている」～「5. 全く酔っていない」、「1. 非常に強く強要した」～「5. 全く強要しなかった」、「1. 非常に強く拒否された」～「5. 全く拒否されなかった」）。また、文章の内容についての想像しやすさについても5段階評定させた（「1. とても想像できる」～「5. 全く想像できない」）。その他に、男性や女性の行動についても「はい・いいえ」の2択で8つの質問に回答させた。

2-4. 仮説

1) 学業的成功, 恋愛におけるのぼせ上がり, アルコールによる酔いは, 通常状況条件の実験参加者に比べて, ナルシシスティック状況条件の実験参加者の方が, 文中の男性を, より成功しており, のぼせ上がっており, 酔っていると評定するであろう。

2) 想像のしやすさは, ナルシシスティック状況条件と通常状況条件の実験参加者の間で差はなく, 同じ程度であろう。

3. 結果

各従属変数に関する条件 (ナルシシスティック状況条件, 通常状況条件) 間の比較を行うため t 検定を行った。

質問紙では, 得点の低い方が, より成功しており, のぼせ上がっており, アルコールに酔っており, 想像しやすいとなっているが, 検定を行う際には, 一般的な考えやすさから, 得点の高い方が, より成功しており, のぼせ上がっており, アルコールに酔っており, 想像しやすいとするため, 全ての従属変数を逆転して得点化した。よって表中では, より得点の高い方が, 成功しており, 酔っており, のぼせ上がっており, 想像しやすいことを示す。

表1. 予備実験における各従属変数の検定結果

従属変数	平均(標準偏差)		t 値	仮説
	ナルシシスティック	通常		
学業($df=41$)	4.77 (0.43)	3.38 (0.69)	8.62 $p<.05$	○
スポーツ($df=50$)	4.69 (0.54)	3.08 (0.62)	9.99 $p<.05$	○
酔い($df=43$)	4.42 (0.50)	1.50 (0.76)	9.88 $p<.05$	○
のぼせ($df=42$)	4.73 (0.53)	3.15 (0.83)	8.12 $p<.05$	○
想像($df=50$)	4.12 (0.71)	3.73 (0.77)	1.86 ns	○
強要($df=44$)	4.27 (0.53)	3.50 (0.76)	4.21 $p<.05$	
拒否($df=50$)	4.58 (0.70)	4.27 (0.82)	1.44 ns	

表1の結果より, 職業的成功 (学業的成功, スポーツ面での成功), アルコールによる酔い, 恋愛におけるのぼせ上がりでは, ナルシシスティック状況条件の実験参加者の方が, 通常状況条件の実験参加者よりも, 文中の男性を学業とスポーツでより成功しており, アルコールに酔っており, のぼせあがっていると評定した。このことから仮説1が支持された。

また, 同様に, 表1の結果より, シナリオの想像のしやすさについては, ナルシシスティック状況条件と通常状況条件で有意差は見られず, 仮説2が支持され, どちらの条件においてもシナリオは想像しやすいと評定された。

性的強要の程度については, どちらの条件でも同じ記述を用いたが, ナルシシスティック状況条件の男性の方が, 通常状況条件の男性よりも, より強く女性に対して性的強要を行っているとして評定され, 2種類のシナリオ間に差が見られ, 予想と異なる結果であった。

4. 考察

予備実験の目的はシナリオによる操作の有効性を検討することであった。ナルシシスティック状況を規定する3つの情報要素全てにおいて条件間に有意差がみられ, 操作が有効であったことが示

された。性的強要については、同じ記述を用いたにも関わらず強さの程度に差がみられ、操作していない場面においてもシナリオに有意差がみられた。このように予想していなかった有意差もみられたが、ナルシシスティック状況を規定する情報要素の操作は有効であったので、本実験でこのシナリオを用いることとした。

方 法

1. 実験計画と実験参加者

実験計画は、ナルシシズム状況（ナルシシスティック状況・通常状況）×ナルシシズム特性（高・中・低）×リアクタンス特性（高・中・低）の3要因実験参加者間計画を採用した。

実験参加者は、大学生男女 299 名を対象とした。ナルシシスティック状況条件は 153 名（男性 55 名、女性 98 名、平均年齢 20.33 歳、 $SD=1.06$ ）であり、通常状況条件は 146 名（男性 62 名、女性 84 名、平均年齢 20.28 歳、 $SD=1.15$ ）であった。

2. 手続き

ナルシシスティック状況条件と通常状況条件のどちらかのシナリオを含む質問紙を無作為に配付した。まず、ナルシシズム特性とリアクタンス特性を測定し、そして場面シナリオを提示し、その後の質問項目に回答させた。質問紙のシナリオがレイプ未遂という内容であるため、シナリオを読む段階で実験参加者に不快感や嫌悪感を与える恐れがある。よってその場合には直ちに回答を中止するように、小冊子の表紙に明記し、かつ口頭でも教示を行った。また、調査は任意のものであり、質問紙への回答を拒否することができるということも実験参加者に伝えた上で、同意が得られた協力者に対してのみ調査を実施した。

3. 従属変数

従属変数は、男性に対する印象、女性に対する印象であった。また操作チェックのため、各情報要素（職業的成功、恋愛におけるのぼせ上がり、アルコールによる酔い）によるシナリオ操作に対する認知を、予備実験と同様の項目で測定した。

4. 測定尺度

実験参加者の特性を測定する尺度については、ナルシシズム特性では、佐方（1987）による自己愛人格目録短縮版（全 30 項目）を用いた。リアクタンス特性では、高本・吉見・深田（2005）によるリアクタンス特性総合尺度（全 23 項目）を用いた。

従属変数を測定する尺度については、大橋・三輪・平林・長戸（1973）による特性形容詞尺度（全 20 項目）を用いて、男性に対する印象と女性に対する印象を測定した。

以上の全ての尺度は、5段階評定（「1. 非常に」～「5. 非常に」）によって測定した。

5. 仮説

1) 男性に対する印象に関しては、ナルシズム特性とリアクタンス特性がともに高い、ナルシスティック状況条件の実験参加者は男性の印象を最も高く評価し、反対に、ナルシズム特性とリアクタンス特性がともに低い通常状況条件の実験参加者は男性の印象を最も低く評価するであろう。

2) 女性に対する印象に関しては、男性に対する印象とは逆に、ナルシズム特性とリアクタンス特性がともに高いナルシスティック状況条件の実験参加者は女性の印象を最も低く評価し、反対に、ナルシズム特性とリアクタンス特性がともに低い通常状況条件の実験参加者は女性の印象を最も高く評価するであろう。

結 果

1. シナリオによるナルシズム状況操作のチェック

シナリオによる操作のチェックのため、操作要因の情報要素である職業的成功(学業面での成功、スポーツ面での成功)、恋愛におけるのぼせあがり、アルコールによる酔い、に関してナルシスティック状況条件と通常状況条件の差をみる t 検定を行った。予備実験の場合と同様に、質問紙では、得点の低い方が、より成功しており、のぼせ上がっており、アルコールに酔っており、想像しやすいとなっているが、検定を行う際には、一般的な考えやすさから、得点の高い方が、より成功しており、のぼせ上がっており、アルコールに酔っており、想像しやすいとするため、全ての従属変数を逆転して得点化した。よって表中では、より得点の高い方が、成功しており、酔っており、のぼせ上がっており、想像しやすいことを示す。

その結果、全ての情報要素において、条件間に有意差が見られ、ナルシスティック状況条件のシナリオの男性の方がより成功しており、のぼせあがり、酔っていると認知されており、シナリオによる状況操作は有効であったことが示された。

表2. 各従属変数に関する状況条件間の検定結果

従属変数	平均(標準偏差)		t 値	仮説
	ナルシスティック	通常		
学業($df=297$)	4.28(0.54)	3.18(0.65)	15.94 $p<.01$	○
スポーツ($df=297$)	4.38(0.56)	3.08(0.73)	17.60 $p<.01$	○
酔い($df=233$)	4.29(0.67)	2.32(1.13)	18.39 $p<.01$	○
のぼせ($df=297$)	4.52(0.66)	3.66(0.83)	10.03 $p<.01$	○
強要($df=297$)	4.07(0.64)	3.86(0.63)	2.85 $p<.01$	
拒否($df=297$)	4.58(0.56)	4.40(0.53)	2.71 $p<.01$	

2. ナルシズム特性とリアクタンス特性の群分け

ナルシズム特性は、佐方による自己愛人格目録短縮版(全 30 項目)を用いて測定し(得点幅 30~150 点)、実験参加者を高群、中群、低群に分けた。群分けの基準は、平均値 $-0.5SD$ 以下(〜78.6 点)を低群(41~78 点)とし、平均値(86.1 点) $+0.5SD$ (15.1 点)以上(93.6 点〜)を高群(94~122 点)とし、その中間を中群(79~93 点)とした。各群の実験参加者数は、低群 92 名(男

性 30 名、女性 62 名)、中群 109 名 (男性 48 名、女性 61 名)、高群 98 名 (男性 39 名、女性 59 名) であった。

リアクタンス特性は、高本他 (2005) によるリアクタンス特性総合尺度 (全 23 項目) を用いて測定 (得点幅 23~115 点) し、実験参加者を高群、中群、低群に分けた。群分けの基準は、平均値 $-0.5SD$ 以下 (~ 59.1 点) を低群 (28~59 点) とし、平均値 (64.8 点) $+0.5SD$ (11.5 点) 以上 (70.6 点 \sim) を高群 (71~106 点) とし、その中間を中群 (60~70 点) とした。各群の実験参加者数は、低群 85 名 (男性 33 名、女性 52 名)、中群 130 名 (男性 48 名、女性 82 名)、高群 84 名 (男性 36 名、女性 48 名) であった。実験参加者数に関するナルシズム特性群、リアクタンス特性群、ナルシズム状況条件および性別のクロス表を表 3 に示す。

表3. 特性群と状況条件と性別のクロス表

条件	ナル特性	リア特性	性別		合計
			男	女	
ナル	高	高	12	14	26
		中	8	8	16
		低	3	8	11
		合計	23	30	53
	中	高	8	12	20
		中	10	16	26
		低	4	10	14
		合計	22	38	60
	低	高	3	2	5
		中	3	18	21
		低	4	10	14
		合計	10	30	40
通常	高	高	5	12	17
		中	6	11	17
		低	5	6	11
		合計	16	29	45
	中	高	5	6	11
		中	13	14	27
		低	8	3	11
		合計	26	23	49
	低	高	3	2	5
		中	8	15	23
		低	9	15	24
		合計	20	32	52

3. 印象尺度の因子分析

印象得点は、点数が高いほど男性・女性に対して良い印象を示すようにするため、項目 1, 3, 4, 6, 8, 11, 13, 15, 16, 19 を逆転して採点した (得点幅 20~100 点)。

大橋他 (1973) の特性形容詞尺度によって男性の印象と女性の印象の 2 つを測定し、その結果に対して因子分析を行った。男性の印象と女性の印象で共通因子を得るために、項目ごとに男性の印象得点と女性の印象得点を合計し、主因子法バリマックス回転によって因子分析を行った。15 項目からなる 5 因子が抽出され、負荷量 .40 未満や、他の因子との負荷量の差が .10 未満であった 5 項目 (「1 積極的な-消極的な」「2 人のわるい-人のよい」「7 非社会的な-社会的な」「9 軽率な-慎重な」「12 沈んだ-うきうきした) は削除した (補助資料 2 参照)。

第 1 因子は、「13 堂々とした-卑屈な」「17 無気力な-意欲的な」「18 自信のない-自信のある」の 3 項目から構成されており、「活動性」因子 ($\alpha=.68$) とした。第 2 因子は、「4 ひとな

つつこいー近づきたい」「14 感じのわるいー感じのよい」「16 親しみやすいー親しみにくい」の3項目から構成されており、「個人的親しみやすさ」因子 ($\alpha=.49$) とした。第3因子は、「3 なまいきでないーなまいきな」「5 にくらしいーかわいらしい」「10 恥しらずのー恥ずかしがりやの」の3項目から構成されており、「素朴さ」因子 ($\alpha=.62$) とした。第4因子は、「8 責任感のあるー責任感のない」「11 しっかりしたー浅はかな」「15 分別のあるー分別のない」の3項目から構成されており、「社会的望ましさ」因子 ($\alpha=.68$) とした。第5因子は、「6 こころの広いーこころの狭い」「19 気長なー短気な」「20 不親切なー親切な」の3項目から構成されており、「おおらかさ」因子 ($\alpha=.68$) とした。

4. 因子ごとの分散分析

4-1. 男性の印象

各因子における条件ごとの得点を表4に示す。

「活動性」因子について、ナルシズム状況（ナルシスティック状況条件・通常状況条件）×ナルシズム特性（高群・中群・低群）×リアクタンス特性（高群・中群・低群）の3要因分散分析を行った。その結果、ナルシズム状況の主効果($F(1,281)=92.04, p<.05$)が有意となり、ナルシスティック状況条件 ($M=11.93$) の実験参加者の方が通常状況条件 ($M=9.78$) の実験参加者よりも有意に男性が活動的であると評価しており、男性に対して良い印象が示され、仮説1を支持する結果となった。

「個人的親しみやすさ」因子について同様の3要因分散分析を行ったが、どの効果も有意ではなく、仮説1は支持されなかった。

「素朴さ」因子について3要因分散分析を行った。その結果、ナルシズム状況の主効果($F(1,281)=6.81, p<.05$)が有意となり、通常状況条件 ($M=8.69$) の実験参加者の方がナルシスティック状況条件 ($M=8.18$) の実験参加者よりも有意に高く男性を素朴であると評価していた。この因子は、ナルシスティック状況の男性が与える「成功」という印象とは別の「素朴さ」という印象を意味するため、ナルシスティック状況条件に比べて通常状況条件の方がより素朴であるという結果になったと考えられる。

「社会的望ましさ」因子について3要因分散分析を行ったが、どの効果も有意ではなく、仮説1は支持されなかった。

「おおらかさ」因子について3要因分散分析を行ったが、どの効果も有意ではなく、仮説1は支持されなかった。

4-2. 女性の印象

各因子における条件ごとの得点を表5に示す。

「活動性」因子について、ナルシズム状況（ナルシスティック状況条件・通常状況条件）×ナルシズム特性（高群・中群・低群）×リアクタンス特性（高群・中群・低群）の3要因分散分析を行った。その結果、リアクタンス特性の主効果($F(2,281)=3.16, p<.05$)が有意となり、リアクタンス特性の高い実験参加者の方 ($M=9.62$) が中程度の実験参加者 ($M=9.21$) よりも、また、リ

表4-1. 男性「活動性」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	12.15	0.34
		中	11.25	0.43
		低	12.55	0.52
	中	高	12.10	0.38
		中	11.89	0.34
		低	12.00	0.46
低	高	12.20	0.77	
	中	11.57	0.37	
	低	11.64	0.46	
通常	高	高	10.00	0.42
		中	9.65	0.42
		低	10.18	0.52
	中	高	9.27	0.52
		中	10.00	0.33
		低	9.18	0.52
	低	高	9.20	0.77
		中	10.13	0.36
		低	10.38	0.35

表4-2. 男性「親しみやすさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	9.35	0.32
		中	8.81	0.41
		低	9.82	0.49
	中	高	8.80	0.37
		中	9.04	0.32
		低	9.86	0.44
低	高	9.40	0.73	
	中	8.86	0.36	
	低	8.71	0.44	
通常	高	高	10.12	0.40
		中	9.53	0.40
		低	9.73	0.49
	中	高	9.36	0.49
		中	9.48	0.31
		低	8.73	0.49
	低	高	9.40	0.73
		中	9.35	0.34
		低	9.58	0.33

表4-3. 男性「素朴さ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	7.62	0.30
		中	7.94	0.38
		低	8.36	0.46
	中	高	7.70	0.34
		中	8.00	0.30
		低	8.07	0.41
低	高	9.60	0.68	
	中	8.29	0.33	
	低	8.00	0.41	
通常	高	高	9.06	0.37
		中	8.94	0.37
		低	8.55	0.46
	中	高	8.36	0.46
		中	8.85	0.29
		低	8.73	0.46
	低	高	8.00	0.68
		中	8.91	0.32
		低	8.83	0.31

表4-4. 男性「社会的望ましさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	8.04	0.40
		中	7.94	0.52
		低	8.00	0.62
	中	高	7.90	0.46
		中	7.89	0.40
		低	8.00	0.55
低	高	8.20	0.92	
	中	8.24	0.45	
	低	7.36	0.55	
通常	高	高	8.53	0.50
		中	8.00	0.50
		低	8.46	0.62
	中	高	6.82	0.62
		中	8.00	0.40
		低	8.82	0.62
	低	高	6.60	0.92
		中	7.57	0.43
		低	7.92	0.42

表4-5. 男性「おおらかさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	8.04	0.32
		中	8.06	0.41
		低	8.09	0.50
	中	高	8.00	0.37
		中	8.12	0.32
		低	7.79	0.44
低	高	8.40	0.73	
	中	8.10	0.36	
	低	7.57	0.44	
通常	高	高	8.71	0.40
		中	8.29	0.40
		低	7.73	0.50
	中	高	8.09	0.50
		中	8.04	0.32
		低	8.27	0.50
	低	高	6.80	0.73
		中	8.13	0.34
		低	8.42	0.34

表5-1. 女性「活動性」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	9.77	0.24
		中	9.13	0.30
		低	8.91	0.37
	中	高	9.60	0.27
		中	9.50	0.24
		低	9.79	0.32
低	高	9.80	0.54	
	中	9.24	0.26	
	低	10.07	0.32	
通常	高	高	9.24	0.29
		中	9.00	0.29
		低	10.36	0.37
	中	高	10.09	0.37
		中	9.11	0.23
		低	8.91	0.37
	低	高	9.20	0.54
		中	9.26	0.25
		低	9.29	0.25

表5-2. 女性「親しみやすさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	10.04	0.28
		中	10.13	0.35
		低	9.64	0.42
	中	高	9.95	0.31
		中	9.46	0.28
		低	9.71	0.37
低	高	10.20	0.63	
	中	9.33	0.31	
	低	9.57	0.37	
通常	高	高	9.77	0.34
		中	9.18	0.34
		低	9.64	0.42
	中	高	9.36	0.42
		中	9.56	0.27
		低	9.73	0.42
	低	高	8.60	0.63
		中	9.39	0.29
		低	9.50	0.29

表5-3. 女性「素朴さ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	10.35	0.26
		中	10.13	0.34
		低	10.18	0.41
	中	高	10.15	0.30
		中	9.77	0.26
		低	10.57	0.36
低	高	10.20	0.60	
	中	10.19	0.29	
	低	10.14	0.36	
通常	高	高	9.47	0.33
		中	10.12	0.33
		低	9.91	0.41
	中	高	10.00	0.41
		中	10.04	0.26
		低	9.55	0.41
	低	高	9.40	0.60
		中	9.87	0.28
		低	9.92	0.27

表5-4. 女性「社会的望ましさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	11.89	0.33
		中	11.56	0.42
		低	10.82	0.51
	中	高	11.25	0.38
		中	11.19	0.33
		低	11.43	0.45
低	高	11.20	0.75	
	中	11.38	0.37	
	低	11.93	0.45	
通常	高	高	10.88	0.41
		中	10.94	0.41
		低	11.46	0.51
	中	高	11.27	0.51
		中	10.85	0.32
		低	10.36	0.51
	低	高	10.40	0.75
		中	11.22	0.35
		低	11.21	0.34

表5-5. 女性「おおらかさ」因子

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	9.73	0.22
		中	10.19	0.28
		低	9.36	0.34
	中	高	9.40	0.25
		中	9.23	0.22
		低	9.57	0.30
低	高	10.40	0.50	
	中	9.67	0.24	
	低	9.29	0.30	
通常	高	高	8.29	0.27
		中	9.41	0.27
		低	10.18	0.34
	中	高	9.09	0.34
		中	9.11	0.21
		低	8.82	0.34
	低	高	8.80	0.50
		中	9.00	0.23
		低	9.46	0.23

アクタンス特性の低い実験参加者の方 ($M=9.56$) が中程度の実験参加者 ($M=9.21$) よりも有意に女性が活動的であると評価した。

また、ナルシズム状況×ナルシズム特性×リアクタンス特性の交互作用 ($F(4,281)=4.16, p<.05$) が有意であった。単純交互作用は、通常状況条件の場合のナルシズム特性×リアクタンス特性 ($F(4,137)=3.28, p<.05$)、ナルシズム特性が高い場合のナルシズム状況×リアクタンス特性 ($F(2,92)=4.51, p<.05$)、リアクタンス特性が低い場合のナルシズム状況×ナルシズム特性 ($F(2,79)=5.47, p<.05$) が有意であった。

単純単主効果の検定結果、①通常状況条件でリアクタンス特性が低い場合には、ナルシズム特性の高い実験参加者 ($M=10.36$) は中程度の実験参加者 ($M=8.91$) や低い実験参加者 ($M=9.29$) よりも女性をより活動的であると評価し、②ナルシズム特性が高く、リアクタンス特性が低い場合には、通常状況条件の実験参加者 ($M=10.36$) の方が、ナルシスティック状況条件の実験参加者 ($M=8.91$) よりも女性をより活動的であると評価し、③ナルシズム特性が高く、通常状況条件の場合には、リアクタンス特性の低い実験参加者 ($M=10.36$) の方が、リアクタンス特性の中程度の実験参加者 ($M=9.00$) よりも女性をより活動的であると評価していた。

「個人的親しみやすさ」因子について同様の3要因分散分析を行った。その結果、ナルシズム状況の主効果 ($F(1,281)=4.01, p<.05$) が有意となり、ナルシスティック状況条件 ($M=9.78$) の実験参加者の方が通常状況条件 ($M=9.41$) の実験参加者よりも有意に高く女性の親しみやすさを評価していた。この結果は、ナルシスティック状況条件の実験参加者の方が通常状況条件の実験参加者に比べて女性の印象を良く評価していることを示し、仮説2とは逆方向の結果となり、仮説2は支持されなかった。

「素朴さ」因子について3要因分散分析を行ったところ、ナルシズム状況の主効果 ($F(1,281)=4.65, p<.05$) が有意となり、ナルシスティック状況条件 ($M=10.19$) の実験参加者の方が通常状況条件 ($M=9.81$) の実験参加者よりも有意に高く女性の素朴さを評価していた。

「社会的望ましさ」因子について3要因分散分析を行った。その結果、ナルシズム状況の主効果 ($F(1,281)=4.20, p<.05$) が有意となり、ナルシスティック状況条件 ($M=11.41$) の実験参加者の方が通常状況条件 ($M=10.96$) の実験参加者よりも有意に高く女性の社会的望ましさを評価していた。この結果は、ナルシスティック状況条件の実験参加者の方が通常状況条件の実験参加者に比べて女性の印象を良く評価していることを示し、仮説2とは逆方向の結果となり、仮説2は支持されなかった。

「おおらかさ」因子について3要因分散分析を行った結果、ナルシズム状況の主効果 ($F(1,281)=12.78, p<.05$)、ナルシズム状況×リアクタンス特性の交互作用 ($F(2,281)=4.82, p<.05$)、ナルシズム状況×ナルシズム特性×リアクタンス特性の交互作用 ($F(4,281)=3.02, p<.05$) が有意となった。

ナルシズム状況の主効果については、ナルシスティック状況条件 ($M=9.65$) の実験参加者の方が通常状況条件 ($M=9.13$) の実験参加者よりも有意に高く女性のおおらかさを評価していた。この結果は、ナルシスティック状況条件の実験参加者の方が通常状況条件の実験参加者に比べて女

性の印象を良く評価していることを示し、仮説 2 とは逆方向の結果となり、仮説 2 は支持されなかった。

ナルシズム状況×リアクタンス特性の交互作用については、下位検定の結果、リアクタンス特性の単純主効果 ($F(2,143)=6.80, p<.05$) が有意となり、通常状況条件の時、リアクタンス特性の中程度の実験参加者 ($M=9.15$) と低い実験参加者 ($M=9.48$) の方が、高い実験参加者 ($M=8.64$) よりも、女性をよりおおらかであると評価することを示した。

ナルシズム状況×ナルシズム特性×リアクタンス特性の交互作用については、単純交互作用の検定結果、通常状況条件の場合のナルシズム特性×リアクタンス特性 ($F(4,137)=4.03, p<.05$)、ナルシズム特性が高い場合のナルシズム状況×リアクタンス特性 ($F(2,92)=5.22, p<.05$)、ナルシズム特性が低い場合のナルシズム状況×リアクタンス特性 ($F(2,86)=4.36, p<.05$)、リアクタンス特性が低い場合のナルシズム状況×ナルシズム特性 ($F(2,79)=3.92, p<.05$) が有意となった。単純単純主効果の検定結果、①通常状況条件でリアクタンス特性が低い場合には、ナルシズム特性が高い実験参加者 ($M=10.18$) の方が中程度の実験参加者 ($M=8.82$) よりも女性をよりおおらかであると評価し、②通常状況条件でナルシズム特性が高い場合には、リアクタンス特性が中程度の実験参加者 ($M=9.41$) や低い実験参加者 ($M=10.18$) の方が高い実験参加者 ($M=8.29$) よりも女性をよりおおらかであると評価し、③ナルシズム特性が高くリアクタンス特性が高い場合には、ナルシスティック状況条件の実験参加者 ($M=9.73$) の方が通常状況条件の実験参加者 ($M=8.29$) よりも女性をよりおおらかであると評価し、④ナルシズム特性が低くリアクタンス特性が高い場合には、ナルシスティック状況条件の実験参加者 ($M=10.40$) の方が通常状況条件の実験参加者 ($M=8.80$) よりも女性をよりおおらかであると評価し、⑤ナルシズム特性が低くリアクタンス特性が中程度の場合には、ナルシスティック状況条件の実験参加者 ($M=9.67$) の方が通常状況条件の実験参加者 ($M=9.00$) よりも女性をよりおおらかであると評価し、⑥リアクタンス特性が低く通常状況条件の場合には、ナルシズム特性の高い実験参加者 ($M=10.18$) の方が中程度の実験参加者 ($M=8.82$) よりも女性をよりおおらかであると評価していた。

5. 因子尺度全体得点 (20 項目) の分散分析

因子分析前の 20 項目の全体得点を従属変数とし、男性の印象と女性の印象について分散分析を行った。

5-1. 男性の印象

男性の印象全体得点 (表 6) に関してナルシズム状況 (ナルシスティック状況条件・通常状況条件) ×ナルシズム特性 (高群・中群・低群) ×リアクタンス特性 (高群・中群・低群) の 3 要因分散分析を行った。その結果、ナルシズム状況の主効果 ($F(1,281) = 7.30, p<.05$) が有意となり、ナルシスティック状況条件 ($M=62.29$) の実験参加者の方が、通常状況条件 ($M=59.75$) の実験参加者よりも、男性の印象を有意に肯定的に評価した。よって仮説 1 は支持された。

5-2. 女性の印象

女性の印象全体得点 (表 7) に関して同様の 3 要因分散分析を行った結果、ナルシズム状況の

主効果($F(1,281)=8.24, p<.05$)が有意となり、ナルシスティック状況条件($M=66.75$)の実験参加者の方が通常状況条件($M=64.73$)の実験参加者よりも、女性の印象を有意に肯定的に評価した。この結果は、仮説とは逆方向の結果であり、仮説2は支持されなかった。

表6. 男性印象全体得点(20項目)の平均値と標準偏差

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	62.04	1.40
		中	59.75	1.78
		低	64.00	1.73
	中	高	61.00	1.59
		中	61.69	1.40
		低	63.00	1.90
	低	高	66.60	3.19
		中	62.38	1.56
		低	59.93	1.90
通常	高	高	62.94	1.73
		中	60.41	1.73
		低	60.64	2.15
	中	高	58.00	2.15
		中	59.93	1.37
		低	59.27	2.15
	低	高	54.80	3.19
		中	60.26	1.49
		低	61.50	1.45

表7. 女性印象全体得点(20項目)の平均値と標準偏差

条件	ナル特性	リア特性	平均値	標準偏差
ナル	高	高	68.00	1.05
		中	67.31	1.34
		低	65.27	1.62
	中	高	66.40	1.20
		中	65.15	1.05
		低	67.07	1.43
	低	高	68.00	2.40
		中	65.62	1.17
		低	67.93	1.44
通常	高	高	63.18	1.30
		中	64.65	1.30
		低	67.46	1.62
	中	高	65.82	1.62
		中	64.85	1.03
		低	63.46	1.62
	低	高	62.20	2.40
		中	65.17	1.12
		低	65.83	1.10

考 察

1. 本研究で得られた知見

本研究は、ナルシスティックリアクタンス理論におけるナルシズムの特性要因と状況要因とリアクタンスの特性要因が、性的強要に及ぼす影響を調べ、ナルシスティックリアクタンス理論の有効性を検討することを目的として行った。

従属変数である男性の印象、女性の印象のうち、男性の印象では因子ごとの分析を行ったところ「活動性」因子においてナルシスティック状況の実験参加者の方が、通常状況の実験参加者よりも、男性をより活動的であると評価し、男性に対して良い印象を抱いていた。また、印象尺度全体(20項目)の分析でも、ナルシスティック状況の実験参加者の方が男性に対して良い印象を抱いており、仮説を支持する結果となった。これらのことから、性的強要が行われた場合でも、その男性がナルシスティック状況にある場合には、その男性に対して比較的良い印象を抱きやすく受容的になることが示された。

しかし、女性の印象については、仮説とは逆方向である、ナルシスティック状況の実験参加者の方が通常状況条件の実験参加者よりも女性に良い印象を抱くという結果が、因子ごとの分析と、印象尺度全体の分析で見られ、仮説は支持されなかった。このように、男性の印象については、仮説が支持される結果が得られたのに対し、女性の印象では仮説は全く支持されなかった。

このような原因としては、①レイブ未遂というシナリオの問題、②測定尺度の問題、③投影法の限界ということが考えられる。

1)レイブ未遂というシナリオの原因

本研究では、男性が恋人である女性に対してレイブ未遂を行うというシナリオを用いた。しかし、ナルシスティック状況という成功した男性に対して拒否をし、その拒否が受け入れられたこと

ナルシスティック状況という成功した男性に対して拒否をし、その拒否が受け入れられたこと
によって、理性があり、また成功した男性に尊重されている女性という印象を実験参加者に与え、
ナルシスティック状況の女性の方が通常状況の女性よりも良い印象になったのかもしれない。シ
ナリオがレイプを行ったものであれば結果は違っていたかもしれない。授業での質問紙配付を考
えるとレイプのシナリオによる実験は難しいが、検討する必要があると考えられる。

2)測定尺度の問題

本研究では、シナリオに登場する男性と女性の印象を、シナリオを読んだ後の全体としての印象
として測定した。このことによって、男性に対してセックスを拒否したことよりも、成功した男性
と付き合っているという印象の方が強く、ナルシスティック状況条件の実験参加者の方が通常状
況条件の実験参加者よりも、女性の印象を高く評価したのかもしれない。シナリオ全体を読んでの
印象を測定するのではなく、男性と付き合っている時点での印象、セックスを拒否した時点での印
象、などを測定していれば、実験参加者が抱くより詳細な印象が測定できたと考えられる。また、
男性についても、セックスを強要した時点での印象、セックスの拒否を受け入れた時点での印象、
などを測定していれば、印象の時系列的変化という視点からの検討が可能であったと考えられる。

3)投影法の限界

操作チェックでは有意差がみられたことから、シナリオが実験参加者に与える男性の成功の印象
は異なっていたといえる。しかし、従属変数の測定では、男性の印象の一部にしかナルシズム状
況条件間に有意差がみられなかった。よって実験参加者は客観的にはシナリオの男性の状況を認知
していたが、投影するまでは至らなかったのかもしれない。しかし、投影法に限界はあるが、理論
の内容上、それ以外の方法での検討は難しいであろう。

2. 今後の課題

本研究では、実際に女性のセックスの拒否がリアクタンスとなっているかどうかというチェック
項目を測定していなかった。よって、男性と女性それぞれに対して、不快感や敵意、反発など、直
接的にリアクタンスを測定できる項目を含めることが必要であると考えられる。そうすることで、
今回ほとんど男性の印象、女性の印象に対して影響がみられなかったナルシズム特性やリアク
タンス特性のリアクタンス喚起に及ぼす影響も検討することができるであろう。

また、男性や女性の印象を測定する場合に、本研究では、シナリオを読んだ後の全体的な印象の
み測定しており、強要した段階や拒否した段階での印象を測定していない。よってシナリオの中
の行動段階ごとに詳細に印象を測定し、より詳しい印象や印象の変化を測定することも必要であ
らう。

引用文献

- American Psychiatric Association 1994 Quick reference to the diagnostic criteria from DSM-IV.
高橋三郎・大野 裕・染矢俊幸 (訳) 1995 DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引き 医学書院
Baumeister, R. F., Catanese, K. R., & Wallace, H. M 2002 Conquest by force: A narcissistic

- reactance theory of rape and sexual coercion. *Review of General Psychology*, 6(1), 92-135.
- Brehm, J. W. 1966 A theory of psychological reactance. New York: Academic Press.
- Bushman, B. J., Bonacci, A. M., van Dijk, M., & Baumeister, R. F. 2003 Narcissism, sexual refusal, and aggression: Testing a narcissistic reactance model of sexual coercion. *Journal of Personality and Social Psychology*, 84, 1027-1040.
- 大橋正夫・三輪弘道・平林 進・長戸啓子 1973 写真による印象形成の研究(2)―印象評定のための尺度項目の選定― 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科) , 22, 83-102.
- 佐方哲彦 1986 自己愛人格の心理測定―自己愛人格目録(NPI)の開発― 和歌山県立医科大学進学課程紀要, 16, 63-76.
- 高本雪子・吉見恒平・深田博己 2005 リアクタンス特性尺度の検討 広島大学心理学研究, 5, 51-68.

【補助資料 1-1. 実験で用いたシナリオ (ナルシシスティック状況条件)】

ある大学2年生の男性がいます。彼は高校時代から続けていた柔道を大学でも続けており柔道部に所属しています。柔道部では、エースとして団体戦でも個人戦でも活躍しています。またこの男性は、学業面でも優秀で、ほぼ全ての科目で「優」の成績をとり続けています。この男性には付き合っ1ヶ月になり、セックスもする恋人がいます。男性は恋人ができたということで舞い上がっており、自分がとても魅力的な人間になったと感じ、そして恋人の気持ちを考えずに自分の要求を押し付けてしまうこともあります。

今日はその恋人とデートの日です。前から観たかった映画を観たり、買い物をしたり、とても楽しい時間を過ごしました。そして夕食ではおいしい料理を食べ、二人ともとても満足しました。その夕食の席で、男性だけはお酒を飲み、ほろ酔いの状態になっています。夕食も食べ終わったデートの帰りに、二人は男性の部屋で過ごすことにしました。

男性の部屋で、女性はコーヒーを飲み、男性はさらにビールやワインなどのお酒を飲みながら、色々なことを話すうち、男性はかなり酔ってきたようです。

そのうち、男性はとてもよい雰囲気になったと感じたので恋人にキスをしました。恋人もキスに応じてくれたため、男性はセックスをしたくなり、恋人の身体に触り始めました。しかし恋人には「やめて」と拒否されてしまいました。男性は、拒否されたものの、このまま続けていれば今に気が変わるかもしれないと思い、そのまま行為を続けました。

男性はそのまま行為を続けていたのですが、恋人は拒否をやめず、拒否の口調も強くなってきたので、男性は仕方なくセックスを諦めることにしました。

【補助資料 1-2. 実験で用いたシナリオ (通常状況条件)】

ある大学2年生の男性がいます。彼は高校時代から続けていた柔道を大学でも続けており、柔道部に所属しています。飛びぬけて実力があるというわけでもなく、特に練習熱心というわけでもありませんが、レギュラーを目指しています。またこの男性は、学業面でもごく平均的な成績をとり続けています。この男性には付き合っ1ヶ月になり、セックスもする恋人がいます。この恋人とは、周囲の大学生同士のカップルと同じような付き合いをしています。

今日はその恋人とデートの日です。前から観たかった映画を観たり、買い物をしたり、とても楽しい時間を過ごしました。そして夕食ではおいしい料理を食べ、二人ともとても満足しました。夕食も食べ終わったデートの帰りに、二人は男性の部屋で過ごすことにしました。男性の部屋では二人でコーヒーを飲みながら、色々なことを話しました。

そのうち、男性はとても良い雰囲気になったと感じたので恋人にキスをしました。恋人もキスに応じてくれたため、男性はセックスをしたくなり、恋人の身体に触り始めました。しかし恋人には「やめて」と拒否されてしまいました。男性は、拒否されたものの、このまま続けていれば今に恋人の気が変わるかもしれないと思い、そのまま行為を続けました。

男性はそのまま行為を続けていたのですが、恋人は拒否をやめず、拒否の口調も強くなってきたので、男性は仕方なくセックスを諦めることにしました。

補助資料2. 印象尺度の因子分析結果(主因子法, バリマックス回転)

	活動性 ($\alpha=0.68$)	親しみやすさ ($\alpha=0.49$)	素朴さ ($\alpha=0.62$)	社会的成熟 ($\alpha=0.63$)	おおらかさ ($\alpha=0.58$)	共通性
18 自信のない—自信のある	0.828	-0.019	-0.045	-0.019	0.057	0.692
17 無気力な—意欲的な	0.648	0.148	0.102	0.169	0.019	0.481
13 堂々とした—うきうきした	0.423	0.210	0.108	0.250	0.197	0.337
16 親しみやすい—親みにくい	0.077	0.642	0.101	0.114	0.252	0.505
4 ひとなつっこい—近づきたい	0.145	0.546	0.001	0.030	0.179	0.351
14 感じの悪い—感じのよい	0.108	0.535	0.351	0.215	0.172	0.496
10 恥しらずの—恥ずかしがりやの	-0.083	-0.040	0.562	0.209	0.177	0.399
5 にくらしい—かわいらしい	0.024	0.321	0.461	0.062	0.259	0.387
3 なまいきでない—なまいきな	0.033	0.137	0.436	0.013	0.141	0.230
11 しっかりした—浅はかな	0.112	0.132	0.118	0.597	0.166	0.428
8 責任感のある—責任感のない	0.181	0.079	0.029	0.531	0.244	0.382
15 分別のある—無分別な	-0.052	0.276	0.181	0.495	0.225	0.408
6 心の広い—こころのせまい	0.023	0.128	0.142	0.230	0.568	0.412
19 気長な—短気な	0.074	0.136	0.151	0.120	0.429	0.246
20 不親切な—親切な	0.186	0.269	0.192	0.227	0.421	0.373
1 積極的な—消極的な	0.402	0.080	-0.338	0.012	0.080	0.288
2 人のわるい—人のよい	0.244	0.340	0.430	0.214	0.081	0.413
7 非社交的な—社交的な	0.187	0.379	0.067	0.221	-0.044	0.234
9 軽率な—慎重な	-0.055	0.004	0.462	0.461	0.008	0.429
12 沈んだ—うきうきした	0.366	0.254	-0.012	-0.010	0.022	0.199
固有値	4.831	2.220	1.340	1.200	1.087	
累積寄与率	9.067	17.682	25.280	32.831	38.446	